

大会第4日(27日)9時~12時

第1会場 熱帯気象 座長 窪田正八

151. 丸山健人(気研予報): 1967年ライン諸島実験中にみられた対流圏上層の擾乱
152. 井沢竜夫(気研台風): 低緯度における雲量の空一時スペクトル解析(熱帯太平洋)
153. 村上勝人(東大理): 数値モデルによる熱帯擾乱の研究(I)
154. 村上勝人(東大理): 数値モデルによる熱帯擾乱の研究(II)
155. 石島英(琉球大): 台風発達と海面からの熱補給
156. 神子敏朗(東航予報): 台風の衰弱初期における風と気圧場のアンバランス
157. 安田浩(静岡地台): 台風の移動について
158. 股野宏志(気象庁電計), 関岡満(防衛大): 台風の大きさについて

第2会場 大気電気 座長 北川信一郎

250. 児島紘, 田中文夫, 関川俊男(東理大): 海洋上でのエロゾル濃度の測定
251. 中谷茂(電総研): 放射性エロゾルの粒経分布の決定に作用するパラメータについて
252. 森田恭弘, 長坂二郎, 石川晴治, 金田昌広(名大

空電研): 関東南方海域におけるサブミクロンエロゾルの張りだし

253. 近藤五郎(飯田測): 地表附近の大気電場とsolar activity
254. 飯田孝夫, 池辺幸正, 川野実(名大工): 大気球による上層大気の電離の測定
255. 北川信一郎, 木村啓造(埼玉大理工) 鷺川哲則(関西電力): 空電強度自記器に記録された冬期の雷放電

第3会場 測器等 座長 小平信彦

349. 木村忠志(防災センター-雪害研): レーザーによる積雪の深さ計原型
350. 上代英一, 小平信彦(気研衛星): 半導体圧力変換素子を利用した隔測気圧計について
351. 森屋俣昌(東海大): 瞬時雨量計
352. 後町幸雄(京大防災研): 雨滴計の検定, 記録および解析方法について
353. 根本修, 神山恵三(気研応用): 均一粒子の発生法について
354. 桜田富世(前橋地台): 群馬県及びその周辺の地震について(第1報)

講演企画委員会ニュース

新しい講演企画委員会が早々の仕事が秋季大会のプログラムの編集であった。次表は、各機関別の講演申し込み数である。

講演の申し込み数は年300を越しているが正式のペーパーになっているのは集誌で40~50から考え全部で100を越えないだろう。

もう一つ気付くことは大学からの数がきわめて安定していることと、最近では気象庁からの発申し込み数は全体の過半数を割っていることである。なお、今回は現業部門からの申し込み数が急増していることと、柏のときには、予稿集の段階での中止が多かったことをつけ加えておきたい。

	札 (46, 秋)	柏 (47, 春)	新 潟 (47, 秋)
気象庁 研究*)	38	55	34
現業	12	18	38
大 学 旧制**)	59	55	57
新制	24	26	27
研究機関	14	14	18
その他	1	7	5
合 計	148	175	179

*) 電計室, 気大, 高層気象台を含む。

***) 旧帝大, およびその付属研究所